Ⅲ　活動を活性化する

最近、ぱっとしないなぁ！
どうも盛り上がらないし、子どもたちもあんまり集まらなくなってきたし、考えないといけないかなぁ。
よーし、ヒントはないか探してみよう！

1.活動をおもしろくする工夫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.50
2.グループを育てる ・・P.57
3.地域で場所を確保する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.64
4.ネットワークを作る・・P.69

1. 活動をおもしろくする工夫

継続的に地域で活動をしていると、「ココをもっとこうしたい！」とか、「コレが変えられたら活動がもっとよくなるのに・・・。」という不満な点や改善したい点が出てくることがあります。中にはそれらの課題に日々頭を抱え、考えただけで重い気持ちになってしまう人もいるかもしれません。
しかし、これらの課題が思い当たる事って実はとってもすごいコトです。あなたがそれだけ子どもたちの事や地域の事、グループの事やメンバーのことを一生懸命に考え、活動をより良くしようとしている証なのです。本章では、そんな活動をよりよくしようとしている人たちのためにいくつかの活動の活性化のためのポイントを紹介します。

(1) 面白い活動とは

活動が面白いなぁ～、と感じる時ってどんなときでしょう

ここでは、Ⅰの**「佐歩太君の盆踊り大会」**（P.10）のケースを例に考えてみます。佐歩太君はきっと次のようなことにおもしろみを感じたのではないでしょうか。

仲間たちを募り、友達や周りの小中学生が協力してくれたことによって盆踊り大会に参画することができたこと	**ネットワーク作り、仲間の協力**
最初はなかなか理解をしてくれなかった大人たちが徐々に協力してくれたこと	**協力者の理解**
普段は地域に顔を見せない中高生たちが盆踊りに参加してくれたこと	**活動のPRの成果**
最後には大人たちもパラパラに参加をしてくれ、盆踊り大会が大きな盛り上がりをみせたこと	**地域の人々に認められたこと**
「おもしろくないなら、おもしろくしちゃおうか」というねらいを達成できたこと。子ども達がやりたいことを実現することができたこと	**ねらいの達成**

ねらいの達成

行事運営やグループ活動ではこの**'ねらい'**がとても重要な意味をもちます。ねらいとは「参加をしてくれた人や関わっている人たちにその活動を通じてどうなってもらいたいのか？」ということです。

【ねらい（目標）の明確化⇒理解⇒共有】

Ｉの盆踊り大会の例では、「地域の子どもたちのために盆踊り大会をおもしろくしたい。」というねらいが佐歩太君にはありました。そしてそのねらいが集まった仲間の共通のモノとなり、それを基によさこいソーランやパラパラという子どもたちでも取っつきやすく、楽しく踊る事ができる２つの踊りのアイデアが生まれました。

【大人を巻き込む】

一緒にやりたいと賛同をしてくれる小中学生が増えてくると、最初は話を聞き入れてくれなかった大人が徐々に様子を見に来るようになり、ついに盆踊り大会の中で企画した踊りをやらせてもらえるようになりました。

【ねらいの達成】

佐歩太君のねらいは町内会の役員さんにとっても共通のモノとなり、地元の若者にも声をかけようという新たな広がりをみせ、最終的には地域の多くの人々を巻き込んで盆踊り大会を大成功に収めることができました。

【達成感⇒次のステップへ】

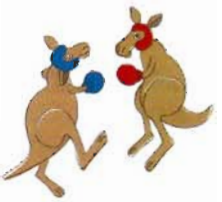
その成功の後には、参加した人々の満足な笑顔・また来たいという気持ち、町内会の役員さんからのありがとうのねぎらい、佐歩太君をはじめとする行事に関わってきた小中学生には達成感があったはずです。この経験によって活動をしている佐歩太君たちは、次につながる自信とまたこういう行事ができたらいいなという意欲の向上を得られたとともに、仲間や協力者に対する信頼感をお互いに改めて感じることができたことでしょう。

行事のたびにその行事に
ふさわしい明確なねらいを持とう！

- マンネリ化や参加者離れを防ぐ。
- グループのやる気（モチベーション）をアップする。
- おもしろい活動への第一歩になる。
- 毎回新鮮で新しい展開がある。
- ねらいの共有がグループ力を高める。
- ねらいの達成が個人やグループを高める。

(2) 失敗や反省を活かす

反省会が愚痴や文句の言い合いになっていないか



行事などが終わると、反省会をすることがしばしばあります。自分たちメンバーだけでする反省会もあるでしょうし、協力してくれた関係団体や大人を交えてするものもあると思います。例えば、地域のジュニアリーダーの話を聞いていると、この反省会が愚痴や文句の言い合いになっているケースが少なくないようです。

「今回の行事のココがダメだった。」

「あの人が／あなたがもっとこうすればよかったのに・・・」

という自分や他の人、または環境や条件などに対する失敗や後悔、悔しさや満足に行かなかったことは、そのまま言いっぱなしにしてしまっては只の愚痴の言い合いで終わってしまいます。

後ろ向きでなく前向きに考える＝不満・失敗を改善する方向へ

メンバーや協力者が互いに考えアドバイスを出しあい改善点として共通の認識を持つようにすると、失敗や後悔をこれからの活動に生かすことのできる材料に変化させることができます。

- **不満な点** ⇒ **どう変えたらよりよい活動が展開できるか**
- **失敗してしまった点** ⇒ **未然に防ぐにはどうすればよいか**

よかった点も出し合おう

反省というのは決して悪かった点ばかりを言い合うことではありません。他のメンバーの良かったところや活動のねらいに対して設定した環境やプログラムの達成できた点などのプラスの部分も、大いにたたえあい評価をし合うべきです。

- **前向きな意見** ⇒ **活動に対する一層のやる気の向上**
  メンバー相互の関係の向上

反省会は気分よく終わりたい！

- 愚痴や文句だけを言い合って嫌な気分で反省を終えるのはなんだかもったいない。
- 次回の行事や今後の活動、メンバーや協力してくれた大人との関係をよりよくするための有意義な時間にしたい。
- 忙しい中で実施したのだから、疲れをいやし次の活動につながる元気をお互いにもらって、気分よく終わりたい。

(3) 現在の活動のふりかえり

ふりかえりの時間は大切！

反省点も含め、その都度活動を自身でまたはメンバーでふりかえることは、活動を活性化させるためにとても大事なことです。資料集 P.90 ～ 93 のふりかえり用紙を参考に、活動や行事をする毎にグループでふりかえる時間をぜひ設けてみてください。

ふりかえりの方法

以下のジュニアリーダーの活動を例にして、ふりかえりの方法を考えてみましょう。

ジュニアリーダーの活動事例

子ども会から毎年夏休みに依頼されている、小学生を対象にした１泊２日のキャンプという行事があります。

今年のキャンプは「参加してくれた子どもたちの一生の思い出に残るようなキャンプをしよう。」というねらいを運営するジュニアリーダーたちは考えました。話し合いを進め企画を立てていく中で、「キャンプファイヤーと野外炊事は今年まだ活動の中でやっていないからプログラムに入れよう。」ということと、「私たちは毎年カレーを作っていて飽きてしまったから今回の野外炊事はパスタを作ろう。」ということを決めました。

そして当日を迎え、ジュニアリーダーたちはプログラムに沿って一生懸命に進行をし、事故もなく無事に子どもたちと１泊２日を過ごすことができ、ジュニアリーダーたちは満足をして家路につきました。

【活動後のスタッフミーティング＝ふりかえり】

以下の観点で、スタッフのふりかえりをします。

① 設定したねらいに適したプログラムや内容になっていたかどうか
② 行事に参加してくれた人たちに対してねらいが伝わったか
③ ねらいは達成できたか

スタッフから以下のような意見が出るかもしれません。

a 行事をこなすということに関して言えば、満足のいく結果だった。
b 設定したねらいとキャンプの内容はズレてはいないか。
c 果たして子どもたちの一生の思い出に残ったのか。
d 企画を立てる際に、ねらいを忘れていなかったか。
e 「やったことがないから」「いつもやっているから」という主催者の都合で、プログラムを決めたのではないか。

【参加者や保護者の方の感想や意見を聞く】

スタッフの多くが上記の a ～ e の意見のように感じている人がいれば、それを検証するには、参加者やその保護者の方の感想や意見を聞いてみるとよいでしょう。

感想から下記のような意見が出たとします。

○参加者＝子ども

- 野外炊事はカレー作りをしたかった。
- キャンプファイヤーは楽しかったけれど、やったことのない活動をしたかった。
- ちょうど流星群が見られる夜だったので、スターウォッチングをしたかった。

○保護者

- 子どもは楽しかったと言っているが、印象に残ったことはと聞くと答えられない。
- キャンプで何をしたいのか、子どもたちに事前に聞いてほしかった。

この声からは、子どもたちが望んでいたキャンプとはなっていなかったことになります。また保護者の方の文章からは、スタッフのねらいである「一生の思い出に残る」行事にならなかったとも考えられます。このようにふりかえりには、子どもたちの率直な考えや保護者のニーズを知ることができます。

ふりかえりの結果によって、自分たちがやりたいこととねらいとのバランスを考えることができます。「活動のマンネリ化」「参加者の減少」「スタッフのモチベーション低下」という悪循環に陥らないようにふりかえりの結果を活かしましょう。そうすることで子どもたちや地域の人たちにとって、更によい活動になるはずです。

ふりかえり用紙の工夫

- 子どもは「楽しかった」「おもしろかった」という感想を書いてくれることが多いのですが、ねらいを達成できたかどうかわかりません。こちらのねらいが達成できたかどうかを評価してもらうためのふりかえり用紙の工夫が必要です。
- 年齢によって、変えてみるとよいでしょう。例えば小学校低学年では文章があまり書けないので絵日記風にするとよいでしょう。
- 反省会やふりかえりの中で出た意見やふりかえり用紙（資料集 P.90 ～ 93 参照）、アンケート結果などは議事録や集計結果をまとめ、グループの資料として保管しておくことをオススメします。
- 役員が世代交代した時にも、書面としても残しておくと必ず役に立つし、同じ間違いを繰り返さないですみます。

(4) 活動評価

一つひとつの行事についての活動評価は(2)(3)の方法で実施するとよいでしょう。それでは皆さんの普段の活動全般について、ふりかえるためには、どうすればよいでしょう。グループの外側に立って、以下の観点から客観的にグループを見つめてみましょう。

活動評価の観点

・会員の人数は適正か
・会員同士の人間関係はうまくいってるか
・どんな内容の活動をどのくらいやっているのか
・日常の活動やイベントでは、問題はないか
・話し合いの雰囲気はうまくいってるのか
・行事のふりかえりは活かされているか

上記の観点で見て、自分たちの活動に対する理想とどうちがっているのかを評価します。具体的には以下のようなことが思い浮かぶでしょう。

例えば、
・メンバー全員にきちんと連絡がいきわたるように、年度の初めに連絡網や連絡掲示板を作ったのにきちんと機能していない。
・月２回の定例会を開いているのだけれど、その時に意見を出すのは先輩たちばかりで、後輩たちはただ聞いて従うだけになってしまっている。
・活動に対して家族や学校、地域の人たちの理解がなかなか得られない。
・本来の自分たちがやりたい活動と、地域の人たちからお願いをされてお手伝いをさせてもらっている内容にズレがある。

現在の皆さんの状況によって大きいものから小さいものまで様々な「理想に対して満足できていない現状の問題点」、「この点が直ったらグループやグループの活動がもっとよいものになるという事柄」に気がつけたのではないでしょうか？

原因を探る

問題点が発見できたら今度はその原因を考えてみましょう。

・「なんでそういう風になってしまったのか？」「何が良くないから現状があるのか？」という一つひとつの問題点に対しての理由を整理してみます。
・理由を整理することが難しい場合には、話し合いの場などでグループのメンバーに自分が考えている問題点を投げかけてみてもいいでしょう。

もしかしたら他のメンバーも同じような悩みを抱えていたかもしれませんし、話を聞いてハッと気づいて「どうにかしなきゃ！」と考えるメンバーも出てくるかもしれません。

対策を練る⇒改善に向けて

ここまでの作業ができたらいよいよ「じゃあどうしたらいいのか？」について考えて見ましょう。出てきた問題点とその原因によっては自分１人で対策を考えて改善できることかもしれませんし、グループのメンバーと話し合いを持つことによって解決のアイデアが生まれるかもしれません。また、すぐに改善できるものもあるでしょうし、時間をかけて徐々に解決していかなければならない問題もあることでしょう。

活動評価ができたら、次にまた実践

グループの活動はこういった事を発見し解決をしていく繰り返しです。時に大変な問題を解決しなければならなかったりすることもあるでしょう。しかし、グループで互いに協力をしあい、時には地域の人や外部の人などの助けを借りながら試行錯誤を繰り返していく必要があります。大切なことは立ち止まったり、後戻りしないことです。失敗したら次の活動に活かしていくことです。

グループのメンバーがお互いの目標や理想を理解しあい尊重しあった中で共通の認識を持ち、あなたや周りのメンバーにとってのベストな環境・ベストな活動を目指して続けていってください。

活動評価は、車で言えば定期点検！

ポイント

- グループで活動していると、マンネリ化してきたり、何のためにやっているのかがわからなくなってくることがあります。そんなときに*「活動評価」*が必要です。定期的にメンバーで実施するとよいでしょう。言わば車の*「定期点検」*と同じです。*「人間ドック」*とも言えるかも。
- 車の点検後は、安心して走れるように、グループ活動も安心してできますね。

2. グループを育てる

グループについての問題点、いろいろと考えてみよう！

(1) 新しい仲間探し

人数が少ないと？

人が少ないと一人ひとりがやることは逆に多くなります。でも話し合いはまとめやすいし、少ない人数でもできるよう企画を工夫する力がつくかもしれません。

人の少ないグループの形

発想を変えて、今の人数でも活動できるように工夫する方法もあります。

例えば、中心になって動くメンバーの他に、○○や××だったら手伝えるというサポートメンバーを集めるのです。サポートメンバーは毎回同じ人にこだわらず、都合の良い人に手を上げてもらいます。

その中から毎回参加してくれるような人がでてきたら、メインのメンバーになってくれる日も近いかもしれません。

新メンバーを集めていこう

人数が多ければ、分担して作業できるし、得意・不得意を生かすこともできます。

新しい年下のメンバーが入れば、活動を引き継いでくれる後輩を育てられます。後輩を育てることは自分自身の成長にも役立ちますし、新しいメンバーは今までの活動を知らない分、どんどん新しい意見を出し、活動のマンネリ化を防ぐことができます。

積極的に新しい仲間を探し、参加させていきたいところです。

<グループ>にこだわる必要はない

こんなことがやりたいと気がついた人が手を上げて、一緒にやってみたい人を集める。何かあるごとに新しいメンバーが集まり、終わると解散する、と考えるとわかりやすいでしょうか。一緒に考え、体験することでつながりが作られていくこともあるのです。

そして体験で学んだことや、行事のノウハウを受け継いでいく。そういったゆるやかなつながりで続いていく集団があってもいいのではないでしょうか。

たとえば

Ⅰの「佐歩太君の盆踊り大会」（P.10）ですが、この活動は佐歩太君が中心になって進めました。

佐歩太君は『子どもたち』の「盆踊り大会がもっと楽しければいいのに」という思いから、楽しくするためにどうしたらいいのか『友人たち』と話し合い、『子どもたち』とも協力しながら振り付けを考え、そして興味を持った町内会の大人に自分たちの考え

を説明しました。

佐歩太君はみんなのやりたいことを聞いて、それを具体的な形にまとめたわけです。

佐歩太君は、「こういうことがやりたいんだけど、やってみたい人集まれ！」という号令役、まとめ役をやって、実際に盆踊り大会を成功させました。

日頃から話をしよう

人の集め方についてはⅡでふれているので、ここでは改めて書きません。

ただ、新しい仲間を探すとき、どういった場合でも大切なのは、自分たちの活動内容について、日ごろから色々な人に話して、理解してもらっておくことです。知らない相手にいきなり話を持ちかけても、「何それ？ていうかあなた誰？」で終わってしまいます。

どんな人に来て欲しいのか

自分たちの活動に賛同してくれる人を探しましょう。以前自分たちの活動を手伝ってくれた人や、イベントの参加者などに、今度はこんなことをするんだけど、と声をかけてみてください。

そして新しくグループに入りたいと希望してくれる人がいたら、自分たちがどういった考えで活動をしているのかを、しっかりと伝えて歓迎しましょう。

(2) 信頼関係づくり

人が出てきてくれない

メンバーは沢山いるのに、その中の決まった人しか活動していなかったり、新しいメンバーを加えても、少しすると参加してくれなくなってしまうことはないでしょうか。

その人たちは何故参加してくれなくなってしまうのでしょうか。

どうして出てきてくれないのか

新しいメンバーは、例えば転校生のようなもの。参加してみたけど、何をしたらいいのかわからず、誰も話しかけてくれずにポツンとしている…。これでは次につながりません。そしてそれは、以前から参加しているメンバーでも同じなのです。

活動の大切さをまじめに考える人もいるでしょうが、活動に参加したい人は、たいてい「楽しそうだから」参加したいと思ってくるはずです。

その気持ちをつぶしてしまわないように、こちらから積極的に声をかけ、「参加して楽しい」と思える雰囲気作りを大切にしていきましょう。

参加したい気持ちはあっても…

出てこない人を無理に引っ張り出そうとしたり、ましてや「どうして来ないの？」と責めたりするのはやめましょう。（普通に聞いたつもりでも、本人はすごく気にするかもしれませんよ？）

人にはそれぞれの都合が、時間的な制約があります。その中で活動に関わっているのですから、どうしても参加できない時というのはあるのです。長期間顔を出さない人がいても、やる気が無いのではなく、何か理由があるのかもしれません。

もう一度参加できる雰囲気を

逆に言うと、まだまだ活動をやりたいと思っていても、何かの理由で一時離れてしまうと、また活動を再開するのは何となく気後れしてしまって難しいものです。

休んだ後での復帰も歓迎できるような雰囲気を作っておきましょう。

そしてまた、本人から参加したいという声があがったら、心から歓迎しましょう。

活動している実感＝活動の楽しみ

グループで何か行うときは、一人ひとりが役割を持つことが大切です。

一方的に教えてもらって指示待ちで活動しているだけでは、自分で活動しているという実感は薄くなってしまいます。自分の意思と意見を持って活動できるようにしていくことで、活動の楽しさや意義を見出すことができるのです。

Ⅲ

日頃から、雰囲気づくりに心がけよう！

自分で出した企画を実施できることはとても楽しいことです。

企画の段階からも、新旧たくさんのメンバーが気軽にアイデアを出し合えるような雰囲気を、日頃から作っていきましょう。

それも先輩の役目

先輩メンバーからすると、新しいメンバーに役割を任せることは、心配かもしれません。しかし、失敗も経験の一つと割り切って、任せたらあれこれと口出しはせず、見守っていきましょう。

もちろん向こうから聞いてきたときは、どんどん応えるのも先輩の役割です。

他にも色々工夫できる

活動内容についてもメンバーに定期的に知らせて、できるときにできる活動に参加してもらえるように工夫してみましょう。

たまにはメンバー全員に呼びかけて交流会をしてみるのも良いことです。お互いあまり知らなかったもの同士が気軽に話し合える場所を用意することで、メンバー間の理解が深まれば、お互い気軽に意見を出し合えるようになります。

(3) 話し合いについて　⇒　Ⅰの5.　P.17　参照

うまく話せているか？

「自分たちの組織ではあまり新しい意見がでてこなくて、活動がマンネリ化している。それに活動の仕方について、うまく後輩に引

き継げていないみたい。」

これはつまり、うまく話し合いができていない、ということになります。

良くない話し合いって？

「はじめから結論が決まっている（特定の人の意見が押し通ってしまう）」とか、「みんな黙ってしまって沈黙だけ」とか、そういったものが上げられますが、こういった形になっていないでしょうか。

皆さんも良い話し合い、いやな話し合いについて考えてみてください。

皆さんは、どんな話し合いをしてますか？

特にこんなことが大切

話し合いのときに必要なのは、色々な意見の言い合える、話しやすい打ち解けた雰囲気です。

特に新しく入ってきたばかりのメンバーや、年下のメンバーからすると、先輩の前で話すのはとても緊張します。意見があっても、黙ってしまうこともあるでしょう。

まずは最初に、その緊張をほぐすことから始めてみてください。

話しやすいように工夫しよう

Ⅰにあるように、開始前に簡単なゲームをするのでも良いし、お菓子や飲み物を用意して、気楽なおしゃべりのように会場を作るのも方法の一つです。

会場は、集まりやすく皆が使い慣れている場所が良いでしょう。学校の教室のような形に机を並べるのは、何か報告したいときには向くかもしれませんが、話し合いでは堅苦しい雰囲気になりますのでやめましょう。

なかなか意見を言えない人のために

緊張していたり、人と違う意見だから言い出しにくかったりと、意見があっても言い出せずに飲み込んでしまう人もいると思います。

そんな人のために、話し合いの内容を参加者に知らせておいて、あらかじめ意見を書いてきてもらうという方法もあります。

紙に書いておけば、みんなで見ながら考えることができます。

紙に書いておく（記録をとる）ことが大事！

- ノートに記録しておくことは大切です。記憶があいまいになることはよくあります。そんなときに確認することができます。
- 引継ぎのときなども有効です。単純にも見えますが、基本的なことは文書にしておくことで、伝えそこなうことを防ぐことができます。

何より大切なのは人間関係

話し合いのときには、先輩メンバーは他の人から意見をうまく引き出せるように心がけてみてください。でも無理やり意見を言わせることは避けましょう。

日ごろから他のメンバーたちとよく話して、信頼できる、話しやすい先輩であるように心がけてください。信頼できる、仲の良い相手にならば、気軽に色々な意見を出すことができるのです。

これは全てのメンバーに当てはまることです。

良い人間関係があってこそ、良い話し合いができると考えてください。

「ダメ」は言ってはダメな言葉

最後に、話し合いで絶対してはいけないことがあります。それは「意見の否定」です。

せっかく出てきた意見に対して、「それはダメだ」と言ってしまったら、次からもう意見どころか、話し合いの場にも出てこなくなってしまうかもしれません。

無理と思われる意見が出てきても、本当に無理なのか、そしてなぜ無理なのかを話しあってください。

そして新しい意見が出てきたら、失敗してもよいくらいの気持ちでどんどん挑戦してみましょう。

(4) スキルアップ

もっと上を目指してみたい

精一杯活動しているのに、毎年同じようなことをしている、どうしたらもっと良いものになるのか悩んでいることはないでしょうか。

自分たちでできること、考えられることを全て出し尽くしてしまい、新しいことをやろうにももう引き出しが無いという状態です。

「ねらい」は達成できているか

同じテーマで同じ内容の行事を繰り返すことは、恒例行事として地域でも定着するので、悪いことではありません。

重要なのはⅢの 1.(1)（P.51）にも書いてあるとおり、**「ねらいの達成」**ができているかです。

その上でより良いものにする工夫や、新しい行事について考えたいのにアイデアが出てこないのならば、外から学び取っていきましょう。

どこから学べる？

こういった技術や工夫の方法は、色々なところから学ぶことができます。

たとえば

自分たちの活動に関係するような本を読む

・図書館や青少年センターなどの青少年施設で探してみましょう。

地域の青少年関連団体の活動に参加する

・新しい地域のニーズが見つかるかもしれません。積極的に参加してみましょう。

色々な研修会に参加する

・青少年センターなどの青少年施設や、役所などでチラシを配布しています。

ボランティア交流会に参加する

・他の団体がどんな活動をしているのか、参考になることが多いはずです。

インターネット利用

インターネットを使って、他の団体について情報を集めてみるのもよいでしょう。

その際はネチケット（ネット上の礼儀、エチケット）を守りましょう。

研修会・たくさんのことが学べる

研修会は、色々なテーマで開催されています。ねらいを絞って学べるので、「これが足りない！これを知りたい！」という部分を積極的に学ぶことができます。

それ以外にも、色々な研修会に参加することで、今まで知らなかった活動や工夫の仕方や、もしかしたら新しい仲間を見つけることができるかもしれません。

研修会はどこでやっている？

⇒　資料集 P.98 参照

例えば、青少年施設や役所、身近な青少年関連の組織でやっていることがあります。

それと、この本にはそういった研修を行っている組織について、簡単な一覧が載っていますので、場所や内容について、参考にしてみてください。

独り占めにしないで、仲間と共有しよう！

誰かが研修に参加して終わりではなく、グループの中で勉強会を開くなどして、どんどん広めていきましょう。グループ全体のレベルアップにつなげていくことが大切です。

交流会に参加してみる

研修会以外に、ボランティア交流会というイベントもあります。色々な活動をしているグループが集まって、お互いの活動について話し合うのです。

自分たちと同じような活動をしているグループはもちろん、違う活動をしているグループからも色々と得られるはずです。交流会の情報については、研修会と同じく青少年施設や役所（P.101 参照）、身近な青少年団体に聞いてみてください。

交流会を開催してみる

自分たちで交流会を開催してみるのも一つの方法です。知っているグループと直接交流するのも良いですし、あちこちに宣伝して大きく開催してみるのも良いでしょう。

その際は使える方法を全部使って、知らないグループにも情報が届くように考えてみてください。役所等に頼んでみると、市や県をまたいで宣伝できるかもしれませんよ。

日常的にレベルアップ そして出会い

こういった学習へは、組織の問題に関係なく、普段から行ってみることをお勧めします。いろいろな場に出て、多くの人や活動と出会い、積極的に自分と組織全体をレベルアップさせていきましょう。

3. 地域で場所を確保する

実際に活動していて困ったことはなんでしょうか。会場が確保できなかったり、Ｉの佐歩太君のように、大人の人に話を聞いてもらえなかったりすることはないでしょうか。その辺りを考えてみましょう。

Ⅲ

(1) 自分たちの活動報告

活動を知ってもらうこと

会場を借りたり、地域で活動しようとする時、行事の中身や皆さんのグループについて聞いてくる人がいると思います。

人に話を聞いてもらうこと、そして認められることは自分たちの活動のエネルギーになりますし、話を聞いてくれた人は、次から活動を支えてくれる大人のサポーターになってくれるかもしれません。

大人も巻き込んでしまおう

大人は皆さんにはない力を持っています。皆さんの知らない知識や技術を持っている人もいます。色々な協力を得ることで、今まで以上に活動をスムーズに進めることができるかもしれません。

地域に積極的にPRし、皆さんに協力してくれる大人を見つけてみましょう。

PR（広報活動）で大切なこと

まずはPRについて考えてみましょう。

PR では、「何がしたいのか、何のために活動しているのか」という活動の目的を分かりやすく説明することです。そして、その目的のために、実際にどんな活動をしているのか、活動を通してどんなことが得られたかを分かりやすく伝えましょう。

これをはっきりさせておくことで、自分たちの目的をいつでも再確認することができるというメリットもあります。

PR（広報活動）の方法として

例えば、**チラシ**や**通信**を作って配ります。読んでほしい相手に 1 部ずつ渡せると効果的ですが、配る枚数分の紙代や、印刷に費用がかかります。

活動が活発なグループはあれもこれもと載せたくなると思いますが、読む人のことや費用も考えて、なるべく簡単に、1 枚くらいにまとめるといいでしょう。（資料集　P.87 参照）

壁新聞を作って、役所や町内会、学校の掲示板に貼ることもできますし、町内会の人が協力してくれているなら、町内の**回覧板**に載せてもらえないか話してみましょう。

かなり大掛かりなものになりますが、地域の人たちを招いての**活動報告会**を開催することで、多くの人に直接聞いてもらうことができます。

また**インターネット**（グループの**ホームページ**や**ブログ**）という方法もあります。インターネットを使えば、遠く離れた人にも PR できます。それだけでなく、掲示板などの活用で、メンバー同士や他の地域のグループとの情報交換にも役立つでしょう。

ただ、インターネットを使わない人もいますので、他の手段も使って情報が伝わるように注意しましょう。

では、協力してくれる地域の大人にはどんな人がいるのでしょうか。

誰かに読んで（チェックして）もらいましょう！

できあがった原稿は、活動に関係ない人に一度読んでもらいましょう。自分たちでは分かるように書いたとしても、他の人からみるとわかりにくかったりするものです。

(2) 協力してくれる人

一番身近な協力者＝親・家族

皆さんに一番身近な大人は誰でしょう。

それは皆さんの家族です。まず自分の家族に理解してもらうところから始めてみましょう。そして他のメンバーや参加者についても、家族の理解は必要です。

このハンドブックを読んでいる皆さんのほとんどは未成年だと思います。保護者に反対されてしまうと、これからの活動は難しくなってしまいます。

たとえば

ナイトウォークなどの夜間行事や宿泊の行事では、保護者の同意がないのに参加してもらうことはできませんし、メンバー同士の日常の話し合いなどでも、帰りが遅いと心配します。もう参加させない！という話になるかもしれません。

理解してもらう、行動で信じてもらう

自分たちはどういったグループで、どういった活動をしているかを説明して、活動で帰りが遅くなるときは連絡を入れるなり、心配をかけないように考えてみてください。

また、可能ならば保護者の皆さんにも活動をどんどん手伝ってもらってください。皆さんがどんな活動をしているのか、どういった人がメンバーなのかを実際に知ることで、安心して送り出すことができるでしょう。

(3) 協力してくれる人⇒学校の先生

学校にも話をしてみよう

最近では、多くの学校が、学校の外での活動をどんどん応援していこうという考え方をするようになっています。

担任の先生や、部活動の顧問の先生、ボランティアに興味を持っている先生方に話をして、実際に活動に協力してもらうのも良いでしょう。

また、学校内で何か活動できないか考えてみてください。他の人に活動を広める良い機会になります。

「学校外活動の単位認定」を知ってますか？

単位制の県立高校では、「学校外活動の単位認定」という制度を持っているところがあります。

学校外でのボランティアやスポーツ・芸術活動などが、卒業単位にカウントされるというものです。もし単位制の学校に通っている人がいたら、ぜひ先生に相談してみてください。

学校のここが便利です

学校の先生が協力してくれると、とても心強いです。学校から情報をもらえたり、地域に情報を発信したいときにも協力してもらえたり、空き教室や体育館などを、何かの会場として使わせてもらえるかもしれません。学校には色々な施設や道具があります。必要なとき借りられたら、無駄にお金を使わずにすみます。

また学校の後押しがある行事や活動は、保護者から理解を得られやすくなるでしょう。

母校の先生に世話になっちゃえば！

母校の小学校の先生には、ぜひとも協力者になってもらいましょう。活動のお知らせやイベントの募集などに協力してもらえるかもしれませんし、小学校の行事予定や年間計画について教えてもらうこともできます。

(4) 協力してくれる人⇒地域の団体

いろいろあります、地域の団体

地域には、子ども・若者に関わるものだけでもいろいろな団体があります。こうした団体に協力してもらえれば、情報収集や活動のサポートをしてもらえる可能性があります。直接子ども・若者に関わっていない団体でも、みなさんと協力してもらえる団体もあります。また近くの大学や専門学校も、地域と関わる活動を考えているところもあります。

特に若い人たちの活動には、どこも応援したいと考えています。必要だと考えたら、いろいろな団体に協力を呼びかけてみましょう。

地域の団体と協力していこう

地域の団体は、その地域で活動の実績があります。活動のためにはどういった準備をし、また必要なものや人材がどこにあるかなどをよく知っています。

町内会館（自治会館）などを借りるため、地域団体の人に声を掛けることもあるでしょう。お互いに協力できる関係ならば、その地域の活動をよりスムーズにすることができます。

また、地域団体の人たちはお互いに交流していることが多いので、知り合いのいる団体があれば、そこを通して他の団体からも協力が得られるかもしれません。

たとえば

子ども・若者と関わっている団体

「子ども会」「ジュニアリーダーズクラブ」「青少年指導員連絡協議会」「学童保育」「ボーイスカウト」「ガールスカウト」「おやじの会」「冒険遊び場のグループ」「育児サークル（母親クラブ等）」「ＪＣ（青年会議所）」

子ども・若者と間接的に関わっている団体

「社会福祉協議会（社協）」「商工会や商店連盟など」「環境や福祉、まちづくりなどのNPO」「体育振興会・体育協会」「体育指導委員連絡協議会」

※NPO：非営利（お金もうけでない）での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のこと。

連絡方法や時間に注意！

NPOやボランティア団体の場合、連絡の窓口（事務局）は個人の自宅の場合もあります。そういう場合は、早朝や深夜を避け、迷惑のかからない時間帯を選んで連絡しましょう。

「ねらい」について話し合おう

その地域でどんな活動が望まれているのか話し合うには、地域の人たちが一番です。

自分たちの活動のねらいと、地域のニーズを考えて、よりよい結果が出るように活動していきましょう。自分たちだけで活動するより、地域の人たちとお互いに協力し合って、一つのことをやり遂げることはとても良い体験になることでしょう。

地域の子どもたちと大人たちの架け橋を作り、その始めの一歩を皆さんの手で作ってみませんか。

Ⅲ

(5) 協力してくれる人⇒行政や人材バンク

他にもいる、協力者

皆さんにはあまり身近ではないかもしれませんが、行政（市町村、県、国などの公共の施設）も地域の団体の一つです。

行政では施設、人材、行事などについての情報を持っていることが多いです。

詳しくはⅡの4(2)（P.41）に書いてありますので、そちらを見てください。

以上のように、地域には様々な団体や組織があります。積極的に話し合い、協力し合うことによって、今皆さんが抱えている問題の解決法が見つかることでしょう。

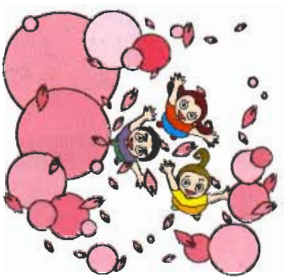
皆さんの活動をより活発にしていくため、自分たちの活動を広め、協力できる組織を増やしていくことを勧めます。

4. ネットワークを作る

人との出会いを大切にすることで、ネットワークが広がります。お互いのメリットを探りながら、関わっていきましょう。

(1) 他の団体と活動してみる

ネットワーク作りのメリット



他の団体と活動することは、自分たちの活動を見つめなおすためにも活動をよりよくするためにもとても効果のあることです。Ⅱの 4（P.40）やⅢの 3（P.67）を見ると分かるように、地域にはみなさんの活動目的や内容と同じような方向性や考え方を持った組織や団体が数多く存在します。

他団体とコミュニケーションを図ることによって、活動の幅や視野が広がり団体相互の良い刺激となり、メンバーの活動意欲の向上やスキルアップにつなげることができます。

そして情報交換もしやすくなるでしょう。

(2) 情報交換

他団体と情報交換をすることは、お互いの団体にとってとても良いメリットがあります。

同じ地域の組織との情報交換

同じ地域の団体との情報交換は、地域の事をよりよく知ることができたり、同じ地域でのパイプができたりします。そして地域での活動をよりスムーズにするためのきっかけとなります。地域のより多くの人に自分たちの活動を知ってもらい、PR してもらえます。新たな活動の機会を手に入れられる絶好のチャンスともなります。

他地域の組織との情報交換

他地域の同じような活動目的や内容の団体（ジュニアリーダーズクラブ同士など）と情報交換することによって、自分たちの知らなかった知識や技術を吸収することができます。また団体で抱えている活動の悩みや問題点を話し合うことで、自分たちだけでは解決できなかった問題の解決の糸口がつかめたり、同じような考え方を持った仲間が他地域にもいることが分かり活動意欲の向上につなげたりすることができます。

お互いに訪問・見学をしてみよう！

ポイント

・地域の様々な施設や他団体の活動の様子などを訪問し、見学することは活動の幅を広げる意味でも効果のあることです。
・訪問や見学をすることによって、新たな活動の展開方法やアイデアなどが発見できるコトもあります。
・他団体の活動を見学させてもらうだけでなく、他団体に自分たちの活動を見てもらい、率直な感想を聞くことで、自分たちの活動に役立てることができます。

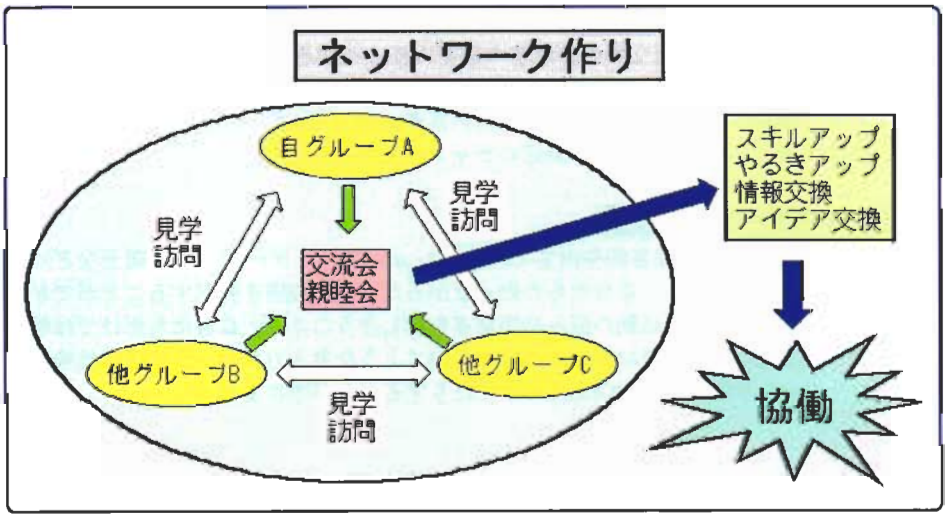
Ⅲ

(3) 交流（ネットワーク作り）

交流会を開いてみよう

お互いに訪問・見学をした後に、他団体と交流会や親睦会を開くとよいでしょう。これも活動のいい刺激になるはずです。普段は別々の活動をしている人々と話し合い共に企画をして交流会や親睦会などのお楽しみ会を催すことにより、お互いのスキルアップや活動意欲の向上にとてもいい効果があるでしょう。

そのような会の中で活動の悩みや問題点などを雑談を交えリラックスしながら話し合うことも、普段一緒に活動しているメンバーとは異なる人に相談できるため客観的にアドバイスをしてもらえることも多く、活動を振り返り今後につなげる非常にいい機会になると思います。



(4) ネットワークの活用

『ネットワーク⇒協働』の可能性

他団体との交流や情報交換などによってできたネットワークをうまく活用すると、その後の活動に大きな可能性を見出すことができます。お互いの団体同士の交流のみで終わってしまうのではなく、例えば交流会の場で出たアイデアをきっかけに、お互いの団体が協力し合い他団体にもサポートしてもらい、今までできなかったような大規模な活動や大勢の人を巻き込んだ活動もできるようになるかもしれません。このような大規模な活動は、地域のより多くの人々のために貢献することができますし、また多くの人たちに自分たちの活動を知ってもらえるきっかけにもなるので、団体にとっても地域にとっても大きなメリットになるはずです。

よりよい地域社会づくりのために

テレビや雑誌などのメディアで、「有名デザイナー○○○とファッションブランド△△△の夢のコラボレーション」とか「ミュージシャン◆◆◆と☆☆☆のコラボ」というものを目にした事はないでしょうか？

この「コラボ／コラボレーション」という言葉が**「協働」**と同じような意味合いです。つまりいくつかの団体などが目的を共有し共に力を合わせて活動をするということです。

いま日本中で、誰もが暮らしやすい明るい地域を作るために、様々な団体や多くの人たちが活動をしています。そこでは、活動のジャンルやスタイルのちがいを越えて、さまざまな団体・グループが協力しあうことが重要だといわれています。

ネットワークを活かし、他団体や組織のお互いの足りない部分を補いあい協力し合うことで地域の抱えた大きな課題も解決できる可能性があります。ぜひ積極的に他団体や組織などとのコミュニケーションを図り、活動に協力してもらい時に協力しながら活動を続けていってほしいと思います。みなさんの活動が活性化するということは、みなさんの住む地域が活性化するということです。

Ⅰの 3.(5)（P.12）で述べたように、みなさんの活動が元気になればなるほど、**住みやすいまちづくり**に貢献していることになります。みなさんの暮らしているまちが、少しでも住みやすくなれば**子ども・若者の未来を明るくする**ことができるでしょう。

おとしあなだよー!!
えへへ
ぎゃー